

## 2024年度（後期）海外渡航旅費助成金成果報告書

北海道大学 大学院理学院 修士2年

石丸 雄理

日本地震学会より海外渡航旅費を助成していただき、2024年12月9日～13日にアメリカのワシントン D.C.にて開催された AGU24 Annual Meeting に参加しましたので、その成果をご報告いたします。

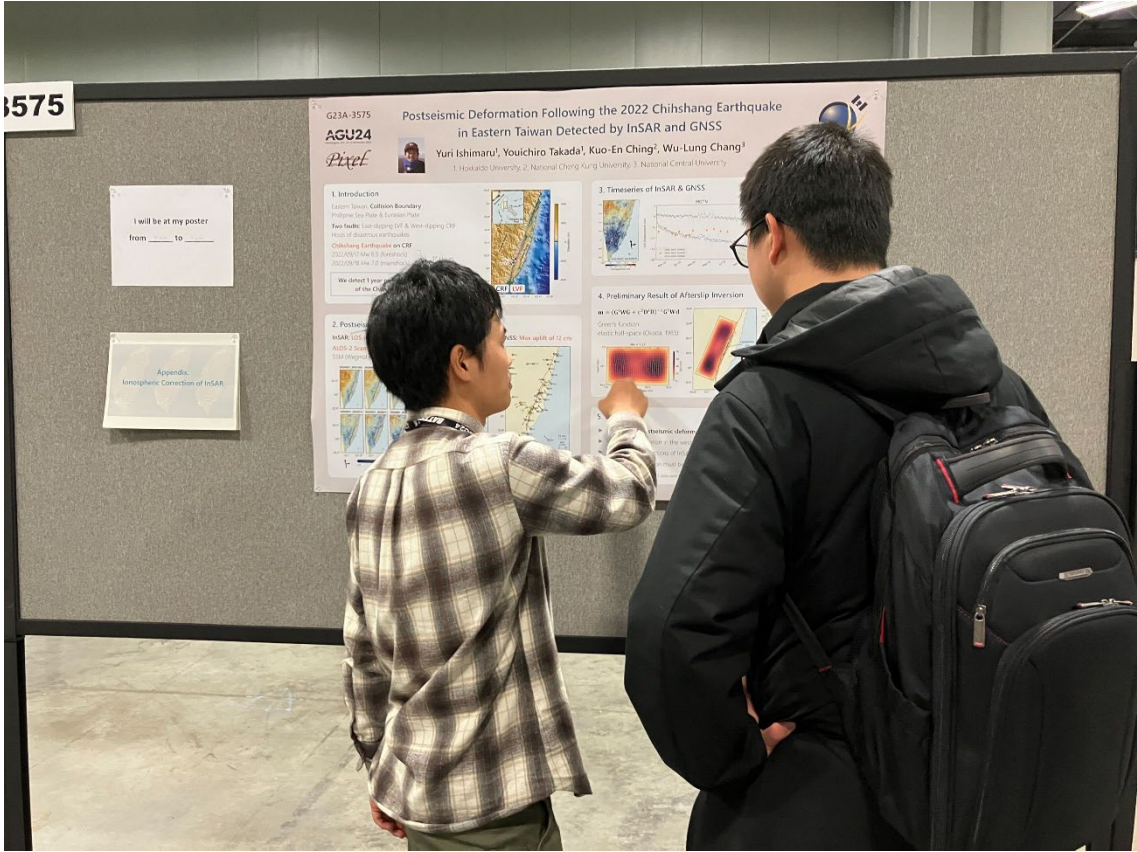
私は「Postseismic Deformation Following the 2022 Chihshang Earthquake in Eastern Taiwan Detected by InSAR and GNSS」というタイトルでポスター発表を行いました。Chihshang 地震 (Mw 7.0) は台湾東部の山地で発生した地震であり、GNSS 観測点が少ないために、余効変動の全貌を明らかにするためには InSAR を用いて面的に変動を検出することが重要です。しかし、植生を透過する L-band の InSAR は電離圏擾乱の影響を受けやすいことが課題です。本研究では、従来の電離圏擾乱補正手法を独自に改良してノイズを低減することに成功し、今回はそれをアピールする良い機会となりました。

発表内容については、余効変動の時系列を従来よりも高精度で検出できた一方、それを用いて推定した断層すべり分布が当初想定していた結果と異なることが懸念材料でした。それでも多くの方が発表を聞きに来てくださり、最後までほぼ途切れることなく説明を続けました。特に、InSAR と GNSS を組み合わせた解析手法について詳しく聞かれることが多く、その関心の高さに研究の方向性が間違っていなかったことを確信しました。また今後に向けて有益なアドバイスをいただくこともできました。

ポスター発表は日本国内の学会を含めても初めての経験でした。口頭発表とは異なり聞き手の反応を見ながら理解してもらえるまで説明することができ、発表内容が相手に伝わったと感じました。また、今回は原稿を準備せずに発表に臨みましたが、その場でどのように説明するかを考えて臨機応変に対応することができ、発表経験を重ねるにつれて発表スキルが上達していることを実感しました。

自身の発表では期待していた以上の手応えを得られた一方で、他者の発表を聞く際に英語力に課題を感じる場面もありました。特に口頭発表では発表内容を十分に聞き取れないことがあり、来年までにリスニング能力を向上させたいという目標ができました。今後も継続的に英語での発表やディスカッションに挑戦し、国際的な研究コミュニティにおいても有意義な議論を交わせるよう実践的な英語力を身につけたいです。

今回の海外渡航を通じて今後の糧となる経験を積むことができました。このような貴重な機会を提供してくださった日本地震学会およびその関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



ポスター発表の様子。